



入院患者家族の滞在施設
にいがたファミリーハウス

やすらぎ News Letter 第3号

2002年7月発行(年4回発行予定)

発行元 にいがたファミリーハウスやすらぎ支援の会

〒950-1134新潟市天野 2-1-13 児玉義明 方

電話 090-2450-7153

http://www.ng-familyhouse.npo-jp.net/index2.html



イラスト：羽田紗織(はねだ さおり)さん。

羽田紗織色鉛筆画の世界

7/3～7/29、にほんぼうラ・
タブルにて

(問合せ：025-226-4184)

羽田紗織ほのぼのイラスト展

9/23～9/29総合福祉会館
1Fホールにて。

第1回命(いのち)のシンポ
ジウムと同時開催です。

支え合い



にいがたファミリーハウスやすらぎ支援の会
会長 児玉義明

「やすらぎ」は患者・家族と支え合いたいという、ボランティアの方々によって運営されています。

「支え合い」私はその意味の深さを、身をもって体験いたしました。

私は肝臓の難病で、「あと半年の命」と宣告され、二男から肝臓提供を受けての生体肝臓移植で生きのびました。ドナーになった家族、肝臓移植の第一号として、病院挙げての態勢をとってくれた新大病院の関係者のおかげです。友人、知人、見ず知らずの県民のみなさんから届いた手紙や寄せ書きに、どれほど勇気づけられたことでしょう。

大人が肝臓移植で生きのびられるようになったのは、わずか10年ほど前からです。私より先に、肝臓移植に挑戦し、研究した患者や医療関係者がいたからこそ、効果的な薬剤や医療機器を開発した人たちがいたからこそ、私にも移植で生きのびるチャンスが与えられたのです。私が今生きていられるのは、人間や科学の進歩、社会の連帯のおかげという気がします。

「支え合いのお返しをしなければ」。そんな思いにかられて、臓器移植が必要な患者を支える「移植医療を進めるいのちリレーの会」を結成し、入院患者・家族を支える「やすらぎ」を、多くのみなさんと力をあわせて立ち上げたのです。

8月7日は、遠い九州大学病院で肝臓移植を受けた際、身内がアパートを借りて付き添い、苦労した体験から、新潟にもファミリーハウスをと奔走した、「いのちリレーの会」のM事務局長の、一年目の命日です。「やすらぎが開発できましたよ」という報告に、ニッコリされて、間もなく息をひきとったMさんを思うたび、「やすらぎ」の「支え合い」をもっと広げたいという願いを強くするのです。

ファミリーハウスやすらぎへ行こう！



にいがたファミリーハウスやすらぎ支援の会
運営委員 宮坂道夫

皆さん、こんにちは！ ワールドカップも終わってしまい、残りの半年をアルビレックス新潟の J1 昇格に賭けて生きている運営委員の宮坂と申します。われらが「ファミリーハウスやすらぎ」はもうすぐ1歳の誕生日を迎えます。しかし、まだハウスがあることすらも知らない方が多いみたいなんですねえ。残念なことです。そこで今回は、「ファミリーハウスやすらぎ」がどんなところなのか、そのイメージを少しでもリアルにお伝えしようと、こんな企画を考えてみました。まずはハウスを利用して下さっている方の多い「県立がんセンター新潟病院」から、ファミリーハウスやすらぎのお部屋まで、一緒に歩いていきましょう。

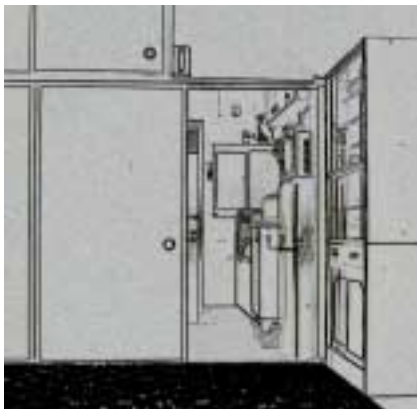


病院の裏手、越後線・白山駅沿いの通りへ出ます【上の図】。歩いていく場合は、この通りの内野寄りに、歩行者・自転車専用のトンネル(?)があり、これをくぐり抜けて北側に出ることができます。ちょっと「千と千尋の神隠し」の不思議の世界へ向かってゆく気分です。【左の図】(とすることで、このページの4枚の図も、下へ行くほど次第にイラストっぽくなっていきます。よ~くご覧ください。)

この「不思議のトンネル」をくぐると、大きな通りへ出ます。これは市役所の方から白山駅前を通ってくる通りです。この通りをわたると、正面にまっすぐな道があります。突き当たりに新潟高校が見えます。この通りをしばらく進んで左に折れると・・・

着きました！ ハウスのお部屋があるのは、ちょっと古めの木造アパートであります【右の図】。ここの何室かを、ファミリーハウスやすらぎに提供してもらっています。病院からここまで、歩いて10分くらいでしょうか。白山駅前通にはコンビニなどのお店がありますし、部屋から数百メートルの所には清水フードのスーパーマーケットもあります。

中は清潔な感じで、お風呂、トイレもちゃんとあります。家具や食器も揃っていて、ここでしばらく一人暮らしができそうなお部屋です【下の図】。



私たちボランティアは、お互いに都合をつけながら、お部屋の掃除をしたり、シーツを交換したりしにきています。ホテルや旅館のような豪華なサービス・・・というわけにはいきませんが、付き添いで心身ともに大変な思いをされている方々に、少しでもくつろいでいただける場になればいいな、と思っています。

この原稿とイラスト、お掃除の後で、ハウスのお部屋で書かせてもらいました。ちょっと学生時代、一人暮らしをしていた頃を思い出してしまいました。この季節、エアコンがあるのがうれしい。わが家では、健康(と金欠)のために、エアコンを使っていないので・・・。

利用者の声

がんセンター新潟病院の利用者の方から、こんなお言葉をいただきました。

「入院した病棟の婦長さんから紹介され、パンフを見せてもらって「やすらぎ」を知り、すぐ申し込みました。病院からすぐ近いところに、設備が整ったお部屋を使わせていただき、本当にありがたかったです。・・・雨がすごく降ったものですから、雨傘が備えてあるとなおよかったと感じました。付き添いがホテルや旅館を利用すると、安くても1泊5、6千円かかるので、経済的な面が一番大変です。その点、1日1500円の利用料は安くて助かりました。」

全国のファミリーハウスのご紹介

サポートハウス親の会（大阪）

サポートハウス親の会（元心臓病児・親の会）は、主に大阪府豊中市の千里地区の病院（阪大病院・国立循環器病センター）へ入通院される方の付添家族の宿泊施設について管理・運営をボランティアでしている会（1988年設立）です。現在6施設、12部屋を運営しています。

国立循環器病センター（大阪府吹田市藤白台）の乳児・小児病棟には、合わせて100以上のベッドがあり、地方からの重い病気の子どもを受け入れ、治療に当たっています。

難病のため、遠隔地から専門病院へ入院せざるを得ない子どもに付き添う家族の方々は、知らない土地で毎日大変な思いをされています。そんなご家族が、安心して治療に専念できるように、宿泊所の整備をしています。

施設管理のため、ハウスマザーとハウスマネージャーがいます。いずれもボランティアで、ハウスマザーは疲れて帰ってくる家族が安らげる空間づくり（室内の衣替え、傷んだ玄関マットの交換など）を月1回程度しています。ハウスマネージャーは利用者の利用日数を面談の上確認し、事務所に報告します。子どもたちのお友達として話し相手になったり、少し勉強も見てくれる家庭教師もいます。

地域の方々による物心両面のサポートが、子どもの発病で落ち込んだご家族の精神的な支えになり、「大阪へ来てよかった。心身共に救われた」。そんな思いを持って、元気になった子どもと一緒にご自宅に帰っていただければと願っています。

1泊 1,600円

一般会員 1口 2,000円 法人会員 1口 10,000円

お問い合わせは、電話 06(4861)1679

ホームページアドレスは、<http://www.supporthouse.org/>

Essay 子ども病棟の思い出 ~あかねちゃんのこと~

竹村真理（新潟大学医学部教員）

あかねちゃんは私が20年前に小児病棟でお世話をした当時3才の女の子でした。あかねちゃんのお母さんはあかねちゃんの弟の世話とパートをしていたので付き添いができませんでした。あかねちゃんは時々小さな手提げを持ってナースステーションに来ます。「かつらせんせいいる？」と主治医の先生を呼びます。研修医の桂先生はいつもナースステーションの大きなテーブルでカルテを書いたりされていました。背が180センチでスポーツマンタイプの先生と1メートルもない貧血で色白のあかねちゃんが並んで座っている光景は「チッチとサリ」の漫画の1コマのようでした。桂先生

が聴診器を首にかけてのっしのっしと廊下をあるいて診察に出かけると、大急ぎでイスからすべりおりて後を小走りについて行きます。私達は黒い抗ガン剤をあかねちゃんに悟られないように好物の岩のりに混ぜるという計画を立てたのですが、新人看護師が朝食を運ぶと、「かんごふさん、おくすりませたあ？」という具合です。朝食が終わるとあかねちゃんは小さな手提げから歯ブラシを出して歯ブラシの毛の部分にあるプラスチックのケースをカチンと音をさせて開き苺味の歯磨きで歯を磨きました。私が「うまくはずすね」というと、（以下、次ページに続く）

(前ページからの続き) 「あかね、保育園でやっているから」といいケースを何回もカチカチと開いて見せてくれます。彼女は採血をする子どもが処置室で泣いていると聞きつけてやってきます。「すぐ終わるよ、泣いてもいいから動いたらあかん」と医師達が行き交う処置室で処置台の上の子に近づこうとして叫ぶように言っていました。「あかねちゃん、そっちの台が動いちゃうから、ちょっとそこで抑えてて」というと彼女はしっかり抑えていました。こっちは採血の介助をしていたら採血していた医師から「竹村さん、台が動くなんで子どもにウソ教えたらいけませんよ」といわれ、

「そうでもしないと彼女はお手伝いに来ますよ」というと「そうだ」と医師が苦笑いしていました。

あかねちゃんがお母さんに抱かれて寝たのは亡くなる1週間だけでした。泣いてお母さんを手こずらせている朝「あかねちゃん、歯ブラシのケースあけて」と言っても「いやん」とお母さんの胸に顔を押しつけました。その7日間のあかねちゃんは今までがんばっていた糸が切れたように泣き虫で甘えん坊でした。どちらもあかねちゃんなのですが、ひとり手提げを持ってがんばっていたのかと思うと不憫な気がする思い出です。

ファミリーハウスご利用案内

利用できる方 新潟市内の病院に入院する患者の付添えされる方
利用期間 原則として1週間以上
利用料 1人1日1500円(2人目から1000円)生活用具がそろっています。
利用方法 電話で「支援の会」に予約する
予約電話: 090-5794-4167
受付時間: 月~金午前9時から12時まで

「支援の会」にご協力ください

会員募集
正会員(本会の目的に賛同して入会した個人及び団体)
年会費: 個人会員1口2千円から、団体1口1万円から
賛助会員(財政支援等により本会を賛助する個人・団体)
年会費: 1口1千円から
振込先: 郵便振替 00570-5-73317
口座名称: にいがたファミリーハウスやすらぎ支援の会
上記以外の寄付も受け付けています。郵便局から上記の振替口座にご入金ください。

ご入会・ご寄付ありがとうございました(2002年7月1日現在)

ご寄付をいただいた方

藍澤文二 / 井上朗子 / 井上ミイ子 / 内山ミサヲ / 小川伸一 / 小川透 / 小泉美子 / 桜井友子 / 佐藤進 / 高浜信行 / 羽田沙織 / 藤田博 / 堀川明子 / 堀川雅弘 / 丸山芳 / 屋敷幸子 / 横山敦子 / 横山晴美 / 吉田三男
笠巻電機商会 / 緑ヶ丘カイロブクティクセンター / 新潟県社会保障推進協議会 / ユープラン
*利用者の方々からもご寄付・ご入会をいただいております。プライバシー保護のため、お名前の掲載は控えさせていただきますが、この場をお借りして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「やすらぎ」へのエアコン取り付けで、お力添えいただきました。

冷暖房・住宅設備機器の取り付け、修理
有限会社 住機新潟
新潟市下場 66 番地 1
TEL025-270-3311、FAX270-3315



編集後記

お気づきになりましたでしょうか? このニュースレターの頭のところ。それからこの文章のすぐ上のところ。そうです、ロゴができたんです。羽田さんのイラストと同様、大変な思いをされている付添者の方に、少しでもつらいでいただきたいという願いが込められています。(MM)

にいがたファミリーハウスやすらぎのホームページも運営しています。どうぞご覧下さい。

URLは <http://www.ng-familyhouse.npo-jp.net/index2.html> です。